

## ANHYDROUS COMPOSITION WHICH CONTAIN FIBER AND POLYOL AND IS USED FOR CARE OR MAKE-UP

**Publication number:** JP2000344627 (A)

**Publication date:** 2000-12-12

**Inventor(s):** JAGER LEZER NATHALIE

**Applicant(s):** OREAL

**Classification:**

**- international:** A61K8/00; A61K8/02; A61K8/18; A61K8/25; A61K8/29; A61K8/31; A61K8/34; A61K8/37; A61K8/39; A61K8/58; A61K8/64; A61K8/65; A61K8/73; A61K8/86; A61K8/88; A61K8/89; A61K8/891; A61K8/92; A61K8/97; A61K8/98; A61Q1/00; A61Q1/02; A61Q1/04; A61Q1/06; A61Q1/08; A61Q1/10; A61Q1/12; A61Q5/00; A61Q17/04; C08L83/04; A61K8/00; A61K8/02; A61K8/18; A61K8/19; A61K8/30; A61K8/72; A61K8/92; A61K8/96; A61Q1/00; A61Q1/02; A61Q1/12; A61Q5/00; A61Q17/04; C08L83/00; (IPC1-7): A61K7/027; A61K7/02; A61K7/021; A61K7/025; A61K7/031; A61K7/032; A61K7/06; A61K7/42

**- European:** A61K8/02; A61K8/29; A61K8/34D; A61K8/88; A61Q1/06; A61Q1/10; Y01N2/00

**Application number:** JP20000150464 20000522

**Priority number(s):** FR19990006411 19990520

### Also published as:



EP1053742 (A1)



EP1053742 (B1)



US2006057085 (A1)



FR2793683 (A1)



ES2223417 (T3)

more >>

### Abstract of JP 2000344627 (A)

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain the subject composition which can give uniform and harmonized make-up and can be used not only for skins and the like but also for eyelashes, eyebrows, nails, hair and the like, by including fibers solubilized in a fat phase with a liquid polyol. **SOLUTION:** This composition contains fibers which are solubilized in a fat phase with a liquid polyol and are sufficiently longer than their diameter. The polyol has an IOB(inorganic/organic balance) value of preferably 1 to 7, more preferably 1.5 to 5.5. The polyol includes propylene glycol, butylene glycol, glycerol and panthenol. The fibers preferably have a length of 0.1 to 5 mm, an average diameter of 5 to 50  $\mu$ m, and a count of 0.15 to 30 denier.; The fibers include silk, cotton, wool, flax, especially cellulose fibers separated from wood, vegetables or sea algae, polyamide fibers, viscose fibers, and poly p-phenylene terephthalamide fibers.

Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2000-344627  
(P2000-344627A)

(43) 公開日 平成12年12月12日 (2000. 12. 12)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テームコード* (参考)
A 6 1 K	7/027	A 6 1 K	7/027
	7/02		7/02 J
	7/021		7/021
	7/025		7/025
	7/031		7/031
審査請求 有 請求項の数20 O L (全 9 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号	特願2000-150464 (P2000-150464)	(71) 出願人	391023932 ロレアル LOREAL フランス国パリ, リュ ロワイヤル 14
(22) 出願日	平成12年 5 月22日 (2000. 5. 22)	(72) 発明者	ナタリー ジェゲール レゼール フランス国 92340 プール ラ レヌ, プールパール デュ マレシャル ジョフ ル 11
(31) 優先権主張番号	9 9 0 6 4 1 1	(74) 代理人	100109726 弁理士 園田 吉隆 (外 1 名)
(32) 優先日	平成11年 5 月20日 (1999. 5. 20)		
(33) 優先権主張国	フランス (F R)		

(54) 【発明の名称】 繊維とポリオールを含有するケア又はメイクアップ用無水組成物

(57) 【要約】

【課題】 激しい摩擦や押圧に対して良好な経時的な持続性を有すると共に光沢のある外観をもたらすケア又はメイクアップ用無水組成物を提供する。

【解決手段】 直径よりも十分に長い長さを有する繊維を、雰囲気温度で液体の少なくとも 1 種のポリオールにより脂肪相に相容化させて含有せしめる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 雰囲気温度で液体の少なくとも1種のポリオールにより脂肪相に相容化させられた繊維を含み、該繊維がその直径よりも十分に長い長さを有している、ケア又はメークアップ用無水組成物。

【請求項2】 上記ポリオールが1～7、好ましくは1.5～5.5の範囲のIOB値を示すことを特徴とする請求項1に記載の組成物。

【請求項3】 上記ポリオールが、プロピレングリコール、ブチレングリコール、イソプレングリコール、ペンチレングリコール、ヘキシレングリコール、4～8のエチレングリコール単位を有するポリエチレングリコール、グリセロール、パンテノール、及びそれらの混合物から選択されることを特徴とする請求項1又は2に記載の組成物。

【請求項4】 上記ポリオールが、組成物の全重量に対して0.1～95%の範囲の量、好ましくは1～50%の量で存在することを特徴とする請求項1ないし3の何れか1項に記載の組成物。

【請求項5】 上記繊維が、絹、綿、ウール、亜麻の繊維、特に木、野菜又は海藻から分離されたセルロースの繊維、ポリアミド、レーヨン、ビスコースの繊維、レーヨン、セルロース又は絹のアセテート等のアセテートの繊維、ポリ-p-フェニレンテレフタミド繊維、ポリメチルメタクリレート又はポリ2-ヒドロキシエチルメタクリレート等のアクリル繊維、ポリエチレン又はポリプロピレン等のポリオレフィンの繊維、ガラス繊維、シリカ繊維、アラミド繊維、グラファイト等の炭素繊維、テフロン（登録商標）繊維、不溶性コラーゲン繊維、ポリエステル繊維、ポリ塩化ビニル又はビニリデンの繊維、ポリビニルアルコールの繊維、ポリアクリロニトリルの繊維、キトサン繊維、ポリウレタンの繊維、ポリエチレンフタレート繊維、ポリマー混合物の繊維、外科用繊維から選択されることを特徴とする請求項1ないし4の何れか1項に記載の組成物。

【請求項6】 上記繊維が合成繊維であることを特徴とする請求項1ないし5の何れか1項に記載の組成物。

【請求項7】 上記繊維がポリアミド又はポリ-p-フェニレンテレフタミドの繊維であることを特徴とする請求項1ないし6の何れか1項に記載の組成物。

【請求項8】 上記繊維は、L/Dが3.5～2500、好ましくは5～500、より好ましくは5～150の範囲から選択される長さLと直径Dを有することを特徴とする請求項1ないし7の何れか1項に記載の組成物。

【請求項9】 上記繊維が0.1～5mm、好ましくは0.25～1.6mmの範囲の長さを有することを特徴とする請求項1ないし8の何れか1項に記載の組成物。

【請求項10】 上記繊維が5～50 $\mu\text{m}$ の平均直径を有することを特徴とする請求項1ないし9の何れか1項

に記載の組成物。

【請求項11】 上記繊維が、0.15～30デニール、好ましくは0.18～18デニールの範囲から選択される番手を有することを特徴とする請求項1ないし10の何れか1項に記載の組成物。

【請求項12】 上記脂肪相が、動物性、植物性又は鉱物性の炭化水素系油、シリコン油及び／又はフッ化油及びその混合物から選択される、雰囲気温度で液体の少なくとも1種の油を含んでなることを特徴とする請求項1ないし11の何れか1項に記載の組成物。

【請求項13】 ペルヒドロスクアレン；ヘプタン又はオクタン酸トリグリセリド又はヒマワリ油、トウモロコシ油、大豆油、カボチャ油、ゼニアオイ油、グレープシード油、ゴマ油、ヘーゼルナッツ油、アプリコット油、マカダミア油、アララ油、ヒマシ油、アボカド油、カプリル酸／カプリン酸トリグリセリド、ホホバ油、カリテバター油；パラフィン油及びその誘導体、ワセリン、ポリデセン、バーリウム等の水素化ポリイソブテン；プルセリン油、ミリスチン酸イソプロピル、イソノナン酸イソノニル、パルミチン酸エチル-2-ヘキシル、ステアリン酸オクチル-2-ドデシル、エルカ酸オクチル-2-ドデシル、イソステアリン酸イソステアリル；乳酸イソステアリル、オクチルヒドロキシステアラート、ヒドロキシステアリン酸オクチルドデシル、リンゴ酸ジイソステアリル、クエン酸トリイソセチル、脂肪アルコールのヘプタノアート、オクタノアート、デカノアート；プロピレングリコールのジオクタノアート、ネオペンチルグリコールのジヘプタノアート、ジエチレングリコールのジイソノナノアート；ペンタエリトリトールのエステル；オクチルドデカノール、2-ブチルオクタノール、2-ヘキシルデカノール、2-ウンデシルペンタデカノール、オレイルアルコール；雰囲気温度で液状の、揮発性又は非揮発性、線形又は環状のポリメチルシロキサン(PDMS)；フェニルトリメチコン、フェニルトリメチルシロキシジフェニルシロキサン、ジフェニルジメチコン、ジフェニルメチルジフェニルトリシロキサン、2-フェニルエチルトリメチルシロキシシリケート、及びこれらの混合物から選択される少なくとも1種の油を含むことを特徴とする請求項1ないし12の何れか1項に記載の組成物。

【請求項14】 少なくとも1種の粒状フィラーを更に含むことを特徴とする請求項1ないし13の何れか1項に記載の組成物。

【請求項15】 スティック又は皿に成形されていてもよい、堅牢又は柔軟な無水ゲルの形態で提供されることを特徴とする請求項1ないし14の何れか1項に記載の組成物。

【請求項16】 着色物質、酸化防止剤、精油、防腐剤、香料、脂溶性ポリマー、液状脂肪相のゲル化剤、ロウ、ガム、フィラー、分散剤、化粧品用又は皮膚科学的

活性剤及びそれらの混合物から選択される少なくとも1種の成分を更に含有することを特徴とする請求項1ないし15の何れか1項に記載の組成物。

【請求項17】 口紅又はリップグロス、ファンデーション、コンシーラ、マスカラ、アイライナー、ほほ紅又はアイシャドウ、ボディ用メイクアップ製品、太陽光用手入れ又は保護製品、髪用メイクアップ製品を構成することを特徴とする請求項1ないし16の何れか1項に記載の組成物。

【請求項18】 請求項1ないし17の何れか1項に記載の化粧品組成物をケラチン物質に適用することからなる、ヒトのケラチン物質の手入れ又は処理のための美容方法。

【請求項19】 経時的持続性、特に押圧又は摩擦に対する持続性及び／又は光沢を、脂肪相と雰囲気温度で液状の少なくとも1種のポリオールを含むケラチン物質の手入れ又はメイクアップ用無水組成物に付与するために繊維を使用する繊維の化粧品の使用。

【請求項20】 経時的持続性及び／又は光沢を、脂肪相と雰囲気温度で液体の少なくとも1種のポリオールを含有する手入れ又はメイクアップ用無水組成物に付与するための化粧的方法であって、上記組成物に繊維を導入することからなる方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、化粧品及び皮膚科学の分野を意図した、繊維を含有する無水組成物に関する。より詳細には、本発明は、ケラチン物質、例えばヒトの、頭皮を含む皮膚、唇及び睫毛、眉毛、爪及び髪等の皮膚骨格の手入れ及び／又は処理及び／又はメイクアップに適用される。

【0002】この組成物は、特に棒状又は皿状に成型された製品形態、例えば口紅又はリップバーム、成型ファンデーション、コンシーラ製品、アイシャドウ又はほほ紅、もしくは程度の差はあれ流動的なペースト又はクリーム形態、例えば流動ファンデーション又は口紅、アイライナー、マスカラ、ケア、抗日光又は皮膚着色、ボディのメイクアップ又は毛髪のメイクアップ用の組成物として提供される。

【0003】特にマスカラの補強効果のために(特開昭57-158714号公報を参照)、「テキスタイル」のような感触のために(特開平7-196440号公報を参照)、口紅におけるファイバー効果又は水分補給効果のために(米国特許第5498407号を参照)、又は唇の縁部上の口紅の輪郭を改善するために(欧州特許出願公開第0106762号公報を参照)、メイクアップ製品中に繊維を使用することが知られている。しかし、残念ながら、組成物中に繊維を均一にかつ沈降させないで分散させることは非常に困難であり、着色組成物、特にメイクアップ組成物では均一でなくあまり美的でない

メイクアップを一般にもたらす。加えて、この分散の困難性のために化粧品特性が一定でなくあまり再現性がないものになり、工業的な製造上の問題と製造コストの上昇の問題が生じていた。

【0004】人の皮膚又は唇をメイクアップ又は手入れするための製品、例えばファンデーション又は口紅は、例えば口紅類及び油類のような脂肪相、顔料及び／又はフィラー、並びに場合によっては例えば化粧品用及び／又は皮膚科学的活性剤のような添加剤を一般に含有する。

【0005】これらの組成物は、皮膚又は唇に塗布すると移ってしまうという欠点がある。すなわち、組成物が接触し得るある種の基体、特に、ガラス、カップ、たばこ、衣類又は皮膚に少なくとも部分的に付着して、シミを残すといった欠点がある。その結果、皮膚の持続性が劣ることとなり、ファンデーション又は口紅組成物を規則的に繰り返し塗布する必要が生じる。さらに、特にブラウスの襟にこのような容認できないシミができると、女性の中には、この種のメイクアップを使用しなくなる人もいる。

【0006】更に、これらの組成物はにじんでしまう傾向を有する。すなわち、組成物が塗布される、唇及び目を取り囲む皮膚のコジワ及びシワの内部へ入り込んでいく傾向があり、美的でない影響を生じる。にじみとは、組成物、特に色材が、最初につけた跡からはみ出すことを意味する。

【0007】資生堂は、特開昭61-65809号公報において、(3次元網状組織を有する)シロキシシリケート樹脂、環状シリコーン鎖を含む揮発性シリコーン油及び粉末状フィラーを含有する「耐移り性」口紅組成物を記述している。更に、ノエビア社は、特開昭62-61911号公報において、一又は複数の炭化水素系口紅と組み合わせ一又は複数の揮発性シリコーンを含有する「耐移り性」口紅、アイライナー及びファンデーション組成物を記載している。

【0008】これらの組成物は、耐移り性が改善されているが、シリコーン油が蒸発した後に時間が経つと不快感(乾いてしまう感じや突張感)を生じる皮膚が唇上に残ってしまう不具合があり、このために、この種の口紅を使用した女性の中にはその使用を中止したりする人もいる。また、揮発性シリコーン油及びシリコーン樹脂をベースとした組成物では、得られる皮膚は艶のない色彩のものとなる。しかし、今、女性は、特に光沢のある色調を唇にもたらす製品を求めている。さらに、付着した皮膚の「耐移り性」は完全ではない。特に、押圧や激しい摩擦により、付着物の色彩が減じられ、これら皮膚と接触する基体へ再び付着する。

【0009】よって、上述した欠点を持たず、特に、著しい摩擦や押圧下でさえも、良好な持続性、「耐移り性」を有し、程度の差はあれ光沢のある外観をもたらす

て女性消費者の要望を満足させ、にじまず、塗布時にも時間が経っても塗布された皮膚又は唇を乾燥させず、均一で美的なメイクアップ又は手入れをもたらす組成物が今だもって必要とされている。

#### 【0010】

【課題を解決するための手段及び発明の実施の形態】本発明は、詳細には、これらの不具合を解消することを可能にする、ケラチン物質の手入れ及び／又は処理及び／又はメイクアップ用の組成物を提供することを目的とする。出願人は、驚くべきことに、メイクアップ組成物において繊維を使用すると、良好な持続性、耐移り性及び非にじみ性が得られ、同時につけているのが快適で艶ないしは光沢感が得られ、またポリオールの使用により組成物中に繊維を均一に分散させることが可能であり、更に均一で調和のあるメイクアップが得られることを見出した。

【0011】本発明は、皮膚、並びにヒトの顔やボディのメイクアップ製品ばかりでなく、睫毛、眉毛、爪及び髪のような皮膚骨格のメイクアップ製品並びに頭皮を含む皮膚の手入れ及び／又は処理を行う製品に適用される。より詳細には、本発明は、雰囲気温度で液体である少なくとも1種のポリオールにより脂肪相に相容化された繊維を含有する、ケラチン物質の手入れ又はメイクアップのための無水組成物を提供することを目的とする。

【0012】「無水組成物」とは、均一な連続脂肪相を含有し、界面活性剤又は乳化剤の不存在下で該脂肪相に不溶な成分、例えば着色料、化粧品又は皮膚科学的活性剤を分散させることができる、水を含んでもよい組成物を意味するものと理解されなければならない。特に、水は組成物の全重量に対して多くとも6%の濃度、例えば2%未満、より好ましくは0.5%未満の濃度で存在する。

【0013】「脂肪相」は、少なくとも10の炭素原子、好ましくは16の炭素原子を有する化合物、シリコン化合物、フッ素化合物及びその混合物から選ばれる一又は複数の脂肪物質を含有する非水性、水非混和性媒体と理解されなければならない。ネイルラッカーに常套的に使用される有機溶媒は脂肪物質とは考えられない。「繊維」は、Dを繊維の断面に内接する円の直径としたときに、LがDよりも非常に長い、長さLと直径Dを有する物体であると理解されなければならない。特に、L/D比(又は形状ファクター)は、3.5~2500、好ましくは5~500、より好ましくは5~150の範囲から選択される。「雰囲気温度」は、通常の大気圧(76 mmHg)で25℃の温度と理解されなければならない。

【0014】「ポリオール」は、少なくとも2つのフリーなヒドロキシル基を含むあらゆる有機分子であると理解されなければならない。特に、本発明のポリオール又はポリオール類は 0.5を越え 特に 1~7 の範囲

より詳細には1.5~5.5のIOB(無機/有機/バランス)値を示す。パラメータIOBは、A.FUJITA Pharm. Bull 2, 163-173 (1954)のような文献及び資生堂の特開平9-151109号公報及び特開平8-217639号又はコーセーの特開平9-175925号のような所定数の刊行物から当業者には既知である。

【0015】本発明の組成物において単独に又は混合物として使用することができ、前述の基準に合致するポリオールの例としては、次のものを挙げることができる：

名称	IOB値
— プロピレングリコール	3.333
— ブチレングリコール	2.500
— イソプレングリコール	2.222
— ペンチレングリコール	2.000
— ヘキシレングリコール	1.818
— PEG-4(*)	2.656
— PEG-6	2.396
— PEG-8	2.266
— グリセロール	5.000
— パンテノール	3.125

(\*)一般に、4から8のエチレングリコール単位を有するポリエチレングリコール(PEG)を挙げることができる。

【0016】IOBに対する前述の基準を満たさないポリオール類の例としては、次のものを挙げるができる。

名称	IOB値
— PPG-10ブタンジオール	0.588
— ポリグリセリル3ジイソステアレート	0.511
— ヒマシ油	0.404

【0017】「相容化」なる表現は、脂肪相中への繊維の微視的意味で均一な分散化又は部分的又は全体的な溶解化を意味する。繊維は次の幾つかの手順により本発明の組成物中に導入することができる：

- 繊維を本発明に係る一又は複数のポリオール中に溶解又は分散せしめ、ついで得られた混合物を、必要に応じて(繊維の融解又は軟化温度よりも低い温度での加熱条件で)加熱して液体にされたか液体の組成物の脂肪相中に乳化剤を用いずに溶解又は分散せしめる；
- 本発明に係る一又は複数のポリオールが、第1の段階で組成物の脂肪相に溶解か分散せられ、ついでポリオール/脂肪相混合物に繊維を溶解させるか分散させることができる。

【0018】好ましくは、ポリオールと繊維が重量で50/50の混合物を用いて、第1の方法で繊維の導入を行う。混合は、VMI社(モンターギュ、フランス)から市販されている攪拌器Turbotest-Rayneriのような繊維を完全に濡らすのに十分な機械的エネルギーを生じる攪拌器を用いて実施することができる。

【0019】脂肪相に繊維を相容化させる一又は複数の

ポリオールは、組成物の全重量に対して0.1～95%の量、より好ましくは1～50%の量で存在する。この組成物は、そのまま使用することもできるし、より複雑な組成物に導入して使用することもできる。この組成物は特にべとつかない感触で、非脂性で心地よい適用感があり、展伸性が良好で、全く均一な外観を示す。

【0020】本発明の組成物において使用することができる繊維は、合成又は天然、無機又は有機の繊維とすることができる。これらは、短くても長くても、単一でも複合体でもよく、例えば編まれたもの、中空のもの又は中実のものでもよい。それらの形状は如何なるものでもよいが、特に考慮される特定の用途に応じて、断面が円形又は多角形(正方形、六角形又は八角形)のものとすることができる。特に、損傷を避けるために、それらの端部は先を鈍くするか、及び／又は研磨される。

【0021】特に、繊維は1nm～20mmの長さ、好ましくは10nm～5mm、特に0.1mm～1.5mmの長さを有する。その断面は、2nm～100μm、好ましくは20nm～20μm、特に500nm～20μmの範囲の直径の円形をなす。繊維の重量と番手はしばしばにデニール又はデシテックスより与えられ、9kmの糸当たりのグラム重量で表される。好ましくは、本発明に係る繊維は、0.15～30デニール、より好ましくは0.18～18デニールの範囲から選択される番手を有する。

【0022】光沢のあるメイクアップを得るには、特に爪と唇のメイクアップの場合には、特に1nm～200μmの範囲の長さを有する短繊維を好適に使用しうる。これに対して、マットなメイクアップに対しては、とりわけ顔のメイクアップ(特にパウダー又はファンデーション)の場合、特に200μmより長い長さを持つ長繊維が好適に使用される。

【0023】繊維は、織物の製造に使用されるもの、特に絹繊維、綿繊維、ウール繊維、亜麻繊維、特に木、野菜又は海藻から分離されたセルロース繊維、ポリアミド(ナイロン<sup>®</sup>)繊維、レーヨン繊維、ビスコース繊維、レーヨン、セルロース又は絹のアセテート等のアセテート繊維、ポリ-p-フェニレンテレフタミド繊維、特にケブラー(Kevlar<sup>®</sup>)繊維、ポリメチルメタクリレート又はポリ2-ヒドロキシエチルメタクリレート等のアクリル繊維、ポリエチレン又はポリプロピレン等のポリオレフィン繊維、ガラス繊維、シリカファイバー、アラミド繊維、グラファイト等の炭素繊維、テフロン<sup>®</sup>繊維、不溶性コラーゲン繊維、ポリエステル繊維、ポリ塩化ビニル又はビニリデン繊維、ポリビニルアルコール繊維、ポリアクリロニトリル繊維、キトサン繊維、ポリウレタン繊維、ポリエチレンテレフタレート繊維、上述したようなポリマーの混合物から形成される繊維、例えばポリアミド／ポリエステル繊維である。

【0024】また、グリコール酸とε-カプロラク톤を

出発原料にして調製された吸収性合成繊維(ジョンソンアンドジョンソンのMonocryl)；乳酸とグリコール酸のコポリマータイプの吸収性合成繊維(ジョンソンアンドジョンソンのVicryl)；ポリエステルテレフタレート繊維(ジョンソンアンドジョンソンのEthibond)及び耐酸腐食性糸(ジョンソンアンドジョンソンのAcier)のような、外科において使用される繊維を、特にネイルラッカーの用途に対して使用することができる。

【0025】更に、繊維は表面処理されていてもされていなくてもよく、被覆されていてもされていなくともよい。本発明において使用することができる被覆繊維としては、反静電気効果のために硫化銅で被覆されたポリアミド繊維(例えばローディアのR-STAT)又は繊維の他の特定の構造を可能にする他のポリマー(例えば特殊な表面処理)又は色彩／ホログラム効果を誘発する表面処理(例えばSildorexの繊維Luxex)を挙げることができる。好ましくは、合成により得られた繊維、特に外科において使用されるもののような有機繊維を使用する。

【0026】本発明に係る組成物において使用することができる繊維は、ポリアミド又はポリ-p-フェニレンテレフタミドの繊維である。その長さ(L)は0.1～5mm、好ましくは0.25～1.6mmの範囲であり、その平均直径(D)は5～50μmの範囲である。特に、P. Bonte機関からポリアミド0.9Dtex0.3mmの名称で市販されている、6μmの平均直径、およそその重量(0.9デシテックス)及び0.3mmから1.5mmの範囲の長さを有するポリアミド繊維を使用することができる。ケブラー・フロク(Kevlar Floc)なる名称でデュボンファイバー社から市販されているもののような12μmの平均直径及び約1.5mmの長さのポリ-p-フェニレンテレフタミド繊維をまた使用することができる。

【0027】繊維の濃度は、考慮される製品のタイプ及び特定の用途に応じて変わる。ファンデーションタイプのフェイス又は唇用(口紅タイプ)メイクアップ製品に対しては、繊維の濃度は、組成物の全重量に対して0.1～20重量%、好ましくは0.5～10重量%とできる。ボディ、爪又は毛髪に対するメイクアップの顕著な特殊効果に対しては、繊維の量は組成物の全重量に対して30%まで増やすことができる。

【0028】本発明の組成物は、ペースト、固形、程度の差はあれ流動性のあるクリームとして更には無水ローションの形態としても提供することができる。これらは、堅牢又はソフトな無水ゲル、場合によってはスティック又は皿に成形した形態とできる。好ましくは、成型形態で提供される。本発明の組成物の脂肪相は、雰囲気温度及び大気圧下で液体である油類と称される一又は複数の脂肪物質を含むことができる。油類は、炭化水素系油、動物性、植物性、鉱物性又は合成由来の油、シリコン油及び／又はフッ化油及びこれらの混合物とされう

る。

【0029】「炭化水素系油類」なる表現は、主に炭素原子と水素原子を含む油類、特にアルカン類及びアルケン類のようなアルキル又はアルケニル鎖を含む油類、並びに一又は数個のエステル、エーテル、ヒドロキシル、カルボキシル基を含むアルキル又はアルケニル鎖を含む油類を意味する。

【0030】本発明の組成物に使用することができる油として、特に以下のものを挙げることができる：

— ペルヒドロスクアレンのような動物性の炭化水素系油；

— 炭化水素系植物油、例えばヘプタン酸又はオクタン酸のような4～10の炭素原子の脂肪酸の液体トリグリセリドあるいはヒマワリ油、トウモロコシ油、大豆油、カボチャ油、ゼニアオイ油、グレープシード油、ゴマ油、ヘーゼルナッツ油、アプリコット油、マカダミア油、アララ油、ヒマシ油、アボカド油、ステアリヌリデュボア社によって販売されているものやダイナミットノーベル社によりミグリオール(Miglyol) 810、812及び818の名称で販売されているもののようなカプリル酸／カプリン酸トリグリセリド、ホホバ油、カリテバター油；

— 鉱物性又は合成の直鎖又は分枝状炭化水素、例えばパラフィン油とその誘導体、ワセリン、ポリデセン、パーリウムのような水素化ポリイソブテン；

— 特に脂肪酸の、合成エステル及びエーテル類、例えばプルセリン油のような、化学式 $R_1COOR_2$ （ここで、 $R_1$ は7～29の炭素原子を有する高級脂肪酸残基を示し、 $R_2$ は3～30の炭素原子を有する炭化水素系鎖を表す）の油、イソノナン酸イソノニル、ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸エチル-2-ヘキシル、ステアリン酸オクチル-2-ドデシル、エルカ酸オクチル-2-ドデシル、イソステアリン酸イソステアリル；ヒドロキシルエステル、例えば乳酸イソステアリル、オクチルヒドロキシステアレート、オクチルドデシルヒドロキシステアレート、リンゴ酸ジイソステアリル、クエン酸トリイソセチル、脂肪アルコールのヘプタノアート、オクタノアート、デカノアート；ポリオールエステル、例えばプロピレングリコールのジオクタノアート、ネオペンチルグリコールのジヘプタノアート、ジエチレングリコールのジイソノナノアート；ペンタエリトリールのエステル、例えばペンタエリトリールのテトライソステアレート；

— オクチルドデカノール、2-ブチルオクタノール、2-ヘキシルデカノール、2-ウンデシルペンタデカノール、オレイルアルコール等の脂肪アルコール；

— 部分的に炭化水素をベースとした及び／又はシリコンを含むフッ化油；

— シリコン油、例えば揮発性又は非揮発性、線形又は環状のジポリメチルシロキサン(PDMS)：2～24

の炭素原子を有する基をシリコン鎖末端に又はペンダント状態で有するアルキル、アルコキシ又はフェニル基を有するポリジメチルシロキサン；フェニレン化シリコン類、例えばフェニルトリメチコン、フェニルジメチコン、フェニルトリメチルシロキシジフェニルシロキサン、ジフェニルジメチコン、ジフェニルメチルジフェニルトリシロキサン、2-フェニルエチルトリメチルシロキシシリケート；

— これらの混合物。

【0031】これらの油類は、組成物の全重量に対して0.2～99.85%、好ましくは1～80%、更に好ましくは10～80%を占める。本発明の組成物は、また、当該分野において通常使用されるあらゆる成分、例えば、着色物質、例えば顔料、真珠光沢剤、液体脂肪相又は本発明のポリオール中に可溶な着色剤、酸化防止剤、精油、防腐剤、香料、脂溶性ポリマー、特に炭化水素系ポリマー、例えばポリアルキレン又はポリラウリン酸ビニル、液体脂肪相のゲル化剤、例えばロウ、ガム及びフィラー、顔料の分散剤、化粧品又は皮膚科学的活性剤、例えばエモリエント剤、保湿剤(水)、ビタミン類、液状ラノリン、必須脂肪酸、親油性又は親水性の日光遮蔽剤及びこれらの混合物を含有することができる。これらの成分は、当該分野において通常使用されている割合で組成物中に存在する。

【0032】言うまでもなく、当業者であれば、考慮される添加により、本発明の組成物の有利な特性が、全く又は実質的に悪影響を受けないように留意して、これらの任意の補足的成分及び／又はその量を選択することができるであろう。

【0033】好ましくは、本組成物は、より堅牢にする目的でロウ類を含有する。これらのロウは、炭化水素系ロウ、フッ化ロウ及び／又はシリコンロウ及び植物性、鉱物性、動物性及び／又は合成であっても良い。特に、これらのロウは45℃を越える融点を有する。本発明において使用することができるロウとしては、炭化水素を含有する(炭素原子及び水素原子を含む)ロウ、シリコンロウ及び／又はフッ化ロウであって、エステル、ヒドロキシル又はチオール基を含んでいてもよいものを挙げることができる。例としては、ラノリン、ミツロウ、カルナウバロウ又はキャンデリラロウ、パラフィン、褐炭ロウ又はマイクロクリスタリンワックス、セレン又はオゾケライト；合成ロウ、例えばポリエチレンロウ、16から45の炭素原子を有するアルキル又はアルコキシジメチコンのようなシリコンロウ、フィッシュアートロプシュ合成法により得られるロウ及びそれらの混合物を挙げることができる。ロウの性質と量は、追求されている機械的性質とテクスチャーの関数である。目安を示すと、本組成物は、組成物の全重量に対する割合で0～50重量%、より好ましくは5～30%のロウを含有することができる。これらのロウはまた本組

成物の構造剤である。

【0034】有利には、本発明の組成物は、組成物の全重量に対して0～40重量%、好ましくは0.5～25重量%、より好ましくは1～25重量%の割合で一般に存在する粉状相を含むことができ、これは化粧品用又は皮膚科学的組成物に常套的に使用される顔料及び／又は真珠光沢剤及び／又はフィラーを含むことができる。

【0035】顔料なる用語は、液体脂肪相に不溶であり、組成物を着色及び／又は不透明化することを意図した白色又は有色の無機もしくは有機の粒子を意味するものと理解されるべきである。フィラーなる用語は、無色又は白色で無機もしくは合成のラメラ状又は非ラメラ状の粒子を意味するものと理解されるべきである。真珠光沢剤なる用語は、特にある種の貝類により殻の内部に生成されたか合成等された、真珠光沢のある粒子を意味するものと理解されるべきである。これらのフィラーと真珠光沢剤は組成物のテクスチャーを変え、特に固体形態にする構造化剤の一部をなすことができる。

【0036】顔料は、最終組成物の重量に対して0.05～25重量%の割合、好ましくは2～15重量%の割合で組成物中に存在しうる。本発明において使用することができる無機顔料としては、酸化チタン、酸化ジルコニウム又は酸化セリウム、並びに酸化亜鉛、酸化鉄又は酸化クロム及びフェリックブルーを挙げることができる。本発明において使用することができる有機顔料としては、カーボンブラックと、バリウム、ストロンチウム、カルシウム(DC赤色7番)、アルミニウム(DC赤色21番又はFDC黄色6番)のレーキ類を挙げることができる。

【0037】真珠光沢材は組成物の全重量に対して0～20重量%の割合、好ましくは1～15重量%のオーダーのレベルで存在しうる。本発明において使用することができる真珠光沢剤としては、酸化チタン、酸化鉄、天然顔料又はオキシ塩化ビスマスで被覆したマイカ、例えば着色チタンマイカを挙げることができる。

【0038】フィラーは組成物の全重量に対して0～35重量%、好ましくは0.5～15重量%の割合で存在しうる。特に、タルク、マイカ、カオリン、ナイロン粉末(特にオルガソール(Orgasol))及びポリエチレン粉末、テフロン、デンプン、窒化ホウ素、エクスパンセル(ノーベルインダストリー)のようなコポリマーミクロスフィア、ポリトラップ(ダウコーニング)及びシリコーン樹脂マイクロビーズ(例えば東芝のトスパール)を挙げ

ることができる。

【0039】本発明の組成物は、皮膚科学的組成物又は皮膚の手入れ用組成物の形態あるいは日光からの保護用組成物又はメークアップ除去用組成物の形態で提供することができる。これらはまた化粧品又は皮膚科学的活性剤を含んでいてもよい非着色形態をとることもできる。また、皮膚又は唇のための手入れ用ベース(寒気及び／又は太陽及び／又は風から唇を保護するためのリップクリーム)、デイ又はナイト手入れクリームとして使用することができる。本発明の組成物は、皮膚のメークアップの着色された製品の形態、特にファンデーション、ブラッシャー、ほほ紅又はアイシャドウ又は唇のメークアップ、例えば口紅又はリップグロスで、場合によっては手入れ又は処理のために提供されるもの、あるいはアイライナー、マスカラ、又はネイルラッカーの形態とすることができる。

【0040】また、本発明は、トリートメント又は非トリートメント、着色又は非着色シャンプー、アフターシャンプー製品の形態で提供することもできる。容易に理解されるように本発明の組成物は、化粧品として又は皮膚科学的に許容できるものでなければならず、ヒトの皮膚又は唇並びに皮膚骨格に適用される非毒性のものである。本発明に係る組成物は、化粧品又は皮膚科学の分野で一般的に使用されている公知の方法によって製造することができる。本発明は、また、該組成物、特に上述したような化粧品組成物をセラチン物質に適用することを、含む、セラチン物質、特にヒトの皮膚又は唇の、手入れ又は処理のための美容方法を提供することを目的とする。

【0041】更に本発明は、脂肪相と室温で液体の少なくとも1種のポリオールを含み、セラチン物質の手入れ又はメークアップのための無水組成物において、経時的な持続性、特に押圧及び摩擦に対する持続性及び／又は光沢を前述の組成物に付与するために繊維を化粧的に使用することを目的とする。本発明はまた、脂肪相と室温で液体の少なくとも1種のポリオールを含む、手入れ又はメークアップ用無水組成物に経時的な持続性及び／又は光沢を付与するための化粧的方法において上記組成物に繊維を導入することからなる方法を提供することを目的とする。

【0042】

【実施例】本発明を以下の実施例により更に詳細に説明する。パーセントは雰囲気温度での重量基準である。

実施例1：ポリアミド繊維を含む口紅

・ポリエチレンロウ	7%
・マイクロクリスタリンワックス	7%
・ゴマ油	24%
・ホホバ油	24%
・フェニルトリメチコーン	3%
・ポリアミド繊維(0.3mm長)	5%



・顔料	9.5%
・ラノリン	10.5%
・グリセリン	10%

【0043】調製法：雰囲気温度(25℃)でグリセリン中に繊維を導入し、レイネリ(Rayneri)ミキサーで30分の間1000回転/分で攪拌して混合した。更に、ロウと油の混合物を100℃の温度に加熱し、ついで溶解した混合物中に顔料を、3筒式(tricylindre)ミキサーで攪拌しながら導入した。ロウ/油/顔料の混合物中にグリセリン/繊維の混合物を導入した。全体を磁気攪拌下で20分の間パン(100℃)中で混合した。ついで混合物を45℃に予め加熱した鋳型に流し込み、棒状にした。

【0044】良好な持続性及び摩擦及び押圧に対する耐性を持ち、均一で美しいメイクアップを可能にするリップグロスを得た。特に、この口紅が有する耐移り性を、

繊維を除くと同じ成分を含有し、繊維の濃度分がグリセリン濃度で埋め合わされた従来技術に係る口紅のものと比較した。これら2種の組成物の適用を比較のため唇半分ずつに実施した。2分間雰囲気空気乾燥させた後、試験者が一枚の紙に「キス」をして跡を残した。彼らは唇の半分に再び口紅を塗布し、ついで10分間の雰囲気空気での乾燥後に一枚の紙に「キス」をした。50分の雰囲気空気での乾燥後にその紙の上に別の「キス」をした。耐移り性の評価を目で見て行った。100%の試験者が、3回の「キス」テストに対して、従来技術に係るものと比較して本発明に係る口紅の耐移り性が優れていると判断した。

#### 【0045】

実施例2：ポリアミド繊維を含む無水ファンデーション

・マイクロクリスタリンワックス	3%
・カルナウバロウ	5.5%
・パルミチン酸オクチル	27.5%
・オクチルドデカノール	10%
・ポリアミド繊維(0.3mm長)	3%
・グリセリン	7%
・顔料	10%
・TiO <sub>2</sub> ナノ顔料	9%
・ケイ酸マグネシウム	8%
・ナイロン粉末	9.5%
・シリカ粉末	4%
・活性成分	2.5%

このファンデーションは、実施例1の口紅と同様にして調製され、最後に活性成分を導入して適当なケース内に流し込んだ。得られたファンデーションは美的で、ソフトで、非脂性で押圧下でさえ移らない均一なメイクアップを付与した。

トで、非脂性で押圧下でさえ移らない均一なメイクアップを付与した。

#### 【0046】

実施例3：ケブラーフロック繊維を含む口紅

・オキシプロピレン化ミツロウ	14.5%
・マイクロクリスタリンワックス	3%
・オキシプロピレン化ラノリンロウ	2%
・ゴマ油	18%
・アララ油	10%
・エルカ酸オレイル	10%
・ラノリン	20%
・アセチル化ラノリン	6%
・ケブラー繊維(1.5mm長)	2%
・プロピレングリコール	7%
・顔料	10.5%

【0047】この棒状口紅は、実施例1の口紅と同様にして調製した。得られた口紅は美的で、ソフトで、非脂性で押圧下でさえ移らない均一なメイクアップを付与した。

た。

#### 【0048】

実施例4：ポリアミド繊維を含む口紅

・ポリグリセロール化(3モル)ミツロウ	4.4%
・マイクロクリスタリンワックス	11%

・オキシプロピレン化ラノリンロウ	6.2%
・ゴマ油	12.4%
・アララ油	12.4%
・エルカ酸オレイル	12.4%
・ラノリン	20%
・アセチル化ラノリン	6.2%
・ポリアミド繊維(0.9Dtex0.3)	5%
・顔料	全体を100%とする量

【0049】この棒状口紅を、エチレングリコールのメ  
タクリレート／ラウリルメタクリレートのコポリマー  
(APSにより市販されているポリトラップ6603)の  
球状粉末5%で5%の繊維を置換した同じ組成の棒状口

紅と比較したところ、専門家のパネルにより本発明の口  
紅よりも明るさが劣ると判定された。ポリトラップ粉末  
は0.1から1 $\mu$ mの粒径で形状ファクターL/Dが0  
である。

フロントページの続き

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	ターマコード(参考)
A 6 1 K	7/032	A 6 1 K	7/032
	7/06		7/06
	7/42		7/42